

2006年 冬号

2006年12月1日発行

目次

TOUCHから	
事務所移転のお知らせ	P 1
PLT教室便り	P 2
自閉症支援センター案内	P 3
支援グッズ紹介	P 4
地域で暮らそう	
福祉サービスアンケート	P 5
自閉症Q & A	P 6
ステップ便り	
MA・FA便り	P 7
本のご紹介	P 8
賛助会員様御礼	P 8



事務所移転のお知らせ

クリスマスのイルミネーションが街をにぎやかに彩る季節になりました。皆様方におかれましては、お元気でご活躍のことと存じます。

日頃よりTOUCHへのご支援、ご協力をいただき深く感謝申し上げます。

このたび、特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCHは、ようやく下記住所に移転することができました。18年春より条件に見合う物件を探しておりましたが、なかなか良いところが見つかりませんでした。

今までわずか6畳2部屋の2DK教室で「個別療育:PLT教室」をやってまいりましたが、ようやく2人の職員がフルに活動できる教室を確保できます。6畳間が4部屋、4畳1部屋、12畳1部屋、10畳くらいのダイニングキッチン1部屋、10畳くらいのプレイルーム1部屋の3階建てです。

場所はJR快速停車駅や地下鉄駅からも近く、療育・相談にもおいでいただきやすいアクセスです。

1階と3階の一部を成人さんの作業所・日中活動の場（来年4月開所計画中です）、2・3階をPLTの個別療育に使用します。自閉症の方々の特性に配慮して、生活動線が見える工夫、見えない工夫、音を遮るなど構造化を行いました。まだまだ未熟な私どもTOUCHではございますが、これを機に自閉症の方々の生涯支援の実現へ向けて一層の努力をいたす所存です。

今後とも、益々のご支援ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。

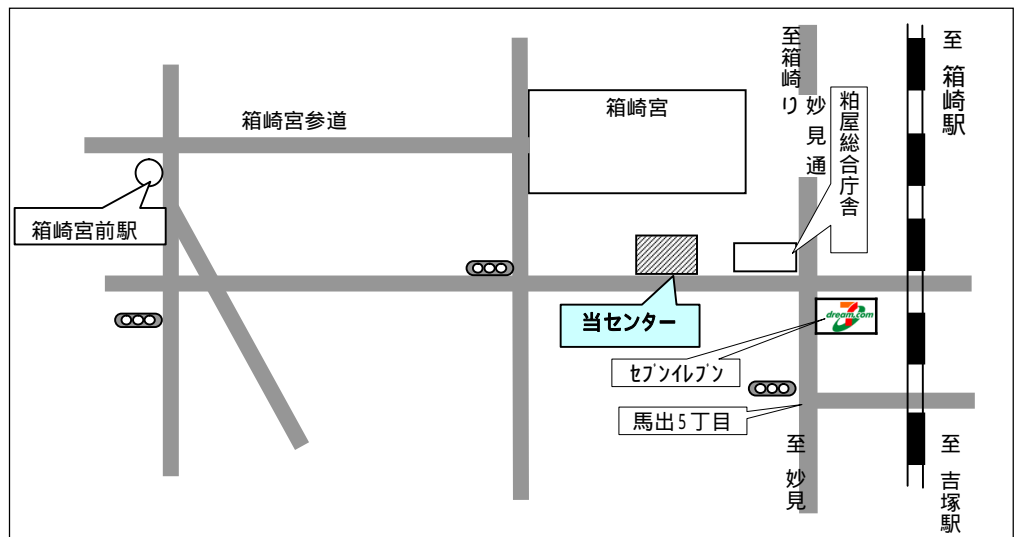
特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎TOUCH
理事長 大森博子

新事務所 福岡市東区箱崎1丁目19-9 優箱崎ビル1F 2号

地下鉄箱崎宮前駅より徒歩8分 JR吉塚・箱崎両駅から徒歩8分



新事務所写真(上)地図(右)



PLT教室便り

新しくなったPLT教室も元気に活動しています！

事務所の2階には療育部屋が2つあり、これからは同じ時間帯にも2名の方が平行して療育を行えるようになりました。部屋のドアにはワンウェイミラーがついており、お子さんが中で活動している様子が見られるようになっていきました。3階には広い遊びのスペースがあり、そこで大きく体を動かして遊んだり、テレビゲームをしたり、ビデオを見たりして過ごしています。

引っ越しをして第1回目の療育では、数名のお子さんが場所の変更には戸惑いを見せていましたが、その方々も2回目以降からはずいぶん慣れてきました。場所や部屋の配置など違う所は多いのですが、今までと同じ支援者、同じスケジュールやワークシステムを使うことによって、安心して活動することができたのだと思います。6畳の部屋の中に、対面課題、自立課題、遊び、おやつなどの4つのエリアを作っていますので、非常に狭い空間になってしまいましたが、皆さん、今までよりずいぶん落ち着いて活動することができています。

この引っ越しで、自閉症の方々にとっていかに周囲の刺激によっていろいろな行動が引き起こされていたのかを改めて知ることができました。私自身も構造化の大切さ、必要性が実感できる貴重な経験になりました。

皆さんも新しくなったPLT教室に是非、遊びに来てくださいね。



自立課題エリアにて勉強中



マンツーマンエリアにて先生と勉強中

* PLT教室とは(P = Play L = Learning Treatment) TOUCHでおこなっている個別療育です。

個別療育

PEP-R(自閉児・発達障害児教育診断検査)などのフォーマルな検査やご家族との面談や、実際にお子さんにお会いしてのインフォーマルな評価をもとに、保護者と共に個別の療育支援計画を作成し、指導者と子どもとのマンツーマンでの療育を行います。
基本的に認知・コミュニケーション・余暇・自立・ソーシャルの各領域のスキルを伸ばすことを考えていますが、お子さんの発達段階や興味関心、保護者のご希望に合わせてオーダーメイドの療育を行います。

入会金	10,000円
年会費	20,000円
個別療育個別療育	28,000円 /月(年42回)
	15,000円 /月(年21回)

生徒募集中

PLT教室の職員は、ともに養護学校の教員免許を持っています。また、それぞれ、自閉症者の居る成人施設の職員、養護学校の講師の経験がありますので、安心してお任せ下さい。

療育中のお子様の様子は、ワンウェイミラーでご覧になれます。また、療育の内容とねらい、結果については、毎回記録して、保護者の方に後日お渡ししており、学校や、医療機関との連携にお役立ていただけます。

* 以前、療育開始の年齢制限を設けておりましたが、現在は制限をしておりません。お気軽にご相談下さい。



自閉症生活支援センター(仮)のご案内

特定非営利活動法人自閉症くらし応援舎では、平成19年4月から、自閉症生活支援センター(仮)を開設し、自閉症を中心とした発達障がいの方の日中活動をおこないます。

目 的

自閉症を中心とした発達障害者は、その障害特性から学校卒業後の生活が不安定になりがちです。彼らの地域での安定した日常生活を支える支援には、何が必要でしょうか？

現在、知的障害を併せ持つ成人の多くは作業所や施設に通ったり、入所されたりしています。しかし、その場所は自閉症の方にとっては快適とは言いがたい場合が多いようです。集団が苦手な方が耐えられる限度を超えた人数だったり、感覚が過敏な方に耐えられない音が聞こえていたり、言葉での理解が苦手な方を混乱させてしまう言葉がかけられていたりします。それは制度上、運営上の理由によるものであったり、十分な障害特性の理解が得られないための誤った支援方法によるものであったりします。

また、知的障害のない方々でも社会性の障害や感覚の異常のために就労に失敗し、適切な日中の活動ができず、ニートになったり、引きこもったりしている場合が多く見られます。

これらのために社会生活上問題となる行動が頻発し、本人および家族・周囲の人々が苦しんでおられます。

障害特性に応じた適切な環境や支援の方法があれば、本人も周囲の人も快適に過ごすことができ、地域で豊かに生活していくことができます。

そこで、当センターでは、自閉症を中心とした発達障害の方が地域で豊かな生活をおくるために日中活動の場所を提供し、障害特性に応じた適切な活動を行います。

障害特性に応じた適切な支援

自閉症を中心とした発達障害者は人との関わりを持ったり、コミュニケーションをとったりすることが苦手です。本人の苦手なところを支えていくために、本人が「わかる」「できる」てだてを考えた支援を行います。また、感覚の特性に配慮した環境を整えます。

具体的には「視覚的に情報を提供する」「環境を構造化する」などを基本に置いた支援を行います。また、利用者個々の特性に応じた支援プログラムを作成し、活動を行います。

利用案内

利用対象

自閉症を中心とした発達障害者(療育手帳の有無は問いません)

障害の程度・年齢は問いませんが、相談の上検討させていただきます。

活動内容

本人やご家族の要望にあわせて柔軟にプログラムを組んで活動します。

ご本人を中心に関係機関と連携しながら対応します。

主な活動内容(プログラムは利用者個々の特性やニーズに応じて変わります)

・紙工芸 ・手芸 ・調理
・余暇活動 ・自立生活訓練 ・就労訓練 など

活動時間

平日:10:00～15:30(休日:土・日・祝日)

活動場所

福岡市東区箱崎1丁目19-9 特定非営利活動法人
自閉症くらし応援舎内

自閉症くらし応援舎TOUCHの1階です。

それぞれの必要度に応じて構造化された空間で活動します。

利用料

年会費:20,000円(予定)

月利用料:40,000円(予定)

センター周辺略図 地下鉄箱崎宮前駅より徒歩8分
JR吉塚・箱崎両駅から徒歩8分

*1ページの地図を参照してください。



支援グッズのご紹介

自閉症児者へのコミュニケーション指導で近年注目をあびているPECS(ペックス)コミュニケーションブックと絵カードをご紹介します。

PECS(Picture Exchange Communication System:絵カード交換式コミュニケーション・システム)は自閉症やその他のコミュニケーション障害を伴う子どもや大人に自発的なコミュニケーションを促すシステムです。

PECSはまずコミュニケーション・マインドを確立し、この手段の確立によって、さまざまな環境の中でも自発的にコミュニケーション能力を発揮できることをめざします。

このPECSで欠かせないものが、PECSコミュニケーションブックと絵カードです。

言葉によるコミュニケーションの苦手な子どもにも自発的コミュニケーションを促すには、PECSはとても活用しやすいシステムだと思います。我が家でもこのシステムでコミュニケーションの意味を教えていたら子どもはもっと楽に自分の意思を伝えられたのではないかと思います。

(株)ピラミッド教育コンサルタントにて使いやすい教材が販売されています。

もちろん当事者の方の特性は様々、絵カードなどはその方にわかりやすく一人一人に合わせる工夫を忘れてはならないでしょう。

PECSの普及をめざす(株)ピラミッド教育コンサルタントでは2daysワークショップと上級レベルのワークショップを日本各地で開催しています。

PECSワークショップや教本など詳しくは、
<http://npo.autism-soreiyu.com/PECS/index.html>
をご覧ください。

PECSコミュニケーションブック

絵カードをマジックテープでつけてコミュニケーションにつかいます。サイズは、大と中の2種類で、それぞれ、バインダー(青)、ボード2枚(赤、緑)、文章カード(黄)、マジックテープ(白)がついています。マジックテープは、必要な数だけ束ねてありますので、添付の説明書に従ってご自身で貼り付けて完成していただけます。

PECS151+

絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)で使うカラーの絵カード集です。PECSを使う幼い子どもが日常使える絵カードを約150種類集めたものです。米国版の絵カード集から取捨選択し、日本の文化に合うものを幾つか追加しました。

問い合わせ

会社名:ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン(株)
代表:服巻繁(はらまきしげる)
住所:〒803-0835
北九州市小倉北区井堀3-6-32-206
Eメール:shigeru@jg8.so-net.ne.jp
FAX093-581-8985



PECSコミュニケーションブック

サイズは、大と中の2種類で、それぞれ、バインダー(青)、ボード2枚(赤、緑)、文章カード(黄)、マジックテープ(白)がついています。マジックテープは、必要な数だけ束ねてありますので、添付の説明書に従ってご自身で貼り付けて完成していただけます。

サイズ(大)縦26cm、横24cm
定価2,700円(消費税込み)サイズ(中)
縦16cm、横18.5cm定価2,100円(消費税込み) マジックテープはご自身で貼り付けてもらいます。



PECS151+

サイズ(大)約45mm
定価1,500円(消費税込み)サイズ
(小)約25mm
定価1,000円(消費税込み)それぞれ
1cm角のマジックテープ(白)が9枚綴り
で17枚ついています。

地域で暮らそう



10月から自立支援法により、福祉サービスが変わってきていますが皆さん利用されているでしょうか？

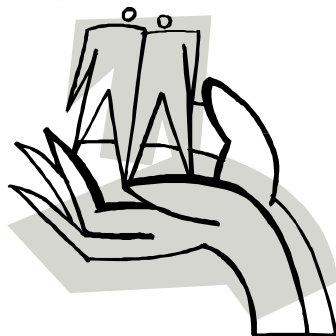
今回会員にアンケートを実施して福祉サービスの現状をさぐってみました。

結果は右のグラフのようになり、ホームヘルプ、移動介護、日中一時支援にサービスが集中していました。

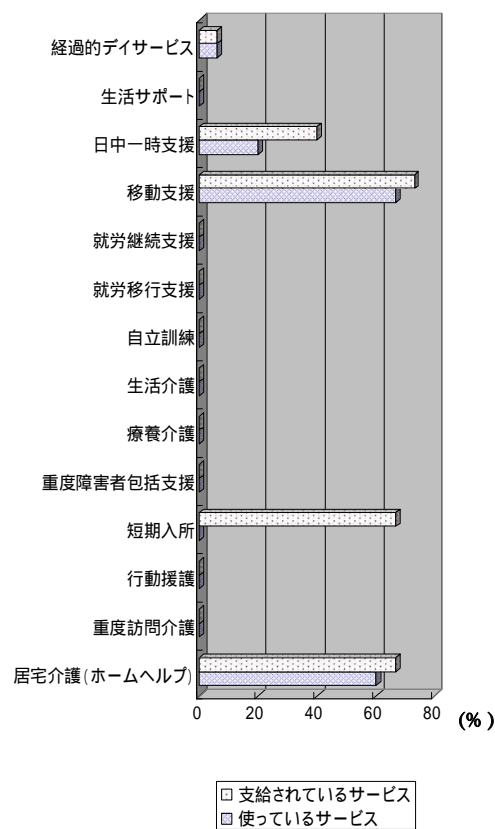
また、現在サービスを受けて不満に思うことを尋ねたところ、ヘルパーさんやサービス事業所が自閉症を理解していないことをあげた方が80パーセントもいました。さらに、サービスに時間や、範囲のさまざまな制限があって、使いたいところで使えないといった声が多く寄せられました。

では、今後どんなサービスを望みますか？という質問には、通学練習支援を60パーセントの方が希望されていました。これは、養護学校の高等部になると、自主通学しなくてはならないため、それまでに、通学の練習をさせたいというもの、自主通学に付き添って欲しいというものがありました。次に多かったのがプールの介助でした。これは、50パーセント以上の方が希望されています。プールは自閉症の子どもと行くと更衣や付き添いで介助者の負担が大きく、異性の子どもの場合、更衣の問題などがあるからだと思います。

そのほかに、母子通園の利用料が2千円から1万円になった。日中一時支援が住んでいる地域に欲しいという意見があります。日中一時支援は預かってもらうところまで送迎しなければならず、緊急に預けたいときなどに、予約が一杯で使えなかったり、利用づらいようです。短期入所は、支給があっても利用がないのは、自閉症の人の場合、慣れない場所に預けたことによって、精神状態が不安定になり、帰宅後家族に負担がかかることを考えて利用できないようです。新しくなったサービスですが、障害児者が将来自立するために、今から練習しておくことが必要だと思われる支援ができるように、サービスを柔軟にきめ細かく提供していただけないものかと思っています。



18歳までの療育手帳を持っている自閉症の人15人の保護者にアンケートを実施し、支給されているサービスと使っているサービスをお尋ねしました。



福祉サービス利用比較アンケート
平成18年11月実施



Q1. 自閉症ってどういう障害なの？

自閉症は生まれつきの障害で、完全に治ることはありません。

自閉症の人は、脳の情報処理の仕方が違うのです。見たり聞いたりすることや感じることを普通の人と同じように理解することができません。このため、人と関わることや、自分の気持ちを伝えたり相手の気持ちをくみとることがとても苦手です。行動も自分勝手に見えることがあります。

普通の喋り方やコミュニケーションのもち方、人や物事への適切な関わり方を習得することは、容易ではありません。

Q2. 自閉症にはどういう特徴があるの？

自閉症の現れ方は人によって異なりますが、次のような特徴が見られます。

- 1、「社会性」の障害(他人との交流が上手くできない)
例] 幼児期に人より物に興味がある。
- 2、「コミュニケーション」の障害(表現や、言葉の理解や使い方が不自然 その場の空気や相手の表情を読むのが苦手)
例] ことばの発達の遅れ、おうむがえし
- 3、「興味関心の対象が狭く偏っている、イメージの障害とこだわり行動があるなど」
例] 同じ道を通らないといけなない。
いつもと同じ場所や形でないとかんしゃくを起こすなど
- 4、「感覚異常」(五感に過敏さや、鈍感がある)
*これは、診断基準に入っていませんが、生活していく上では、重要なポイントになります。
例] いつも耳をふさいでいる。

Q3. どんなふうに接したらいいの？

指示は簡単明瞭具体的に

抽象的な「そこ」「あっち」「きちんと」など、絵にし難い言葉はわかりにくです。「机の上」「1回拭く」などより具体的に指示してください。

一つのことだけを伝えてください

同時に2つの事は難しいです。「歌いながら踊る」「目を見て、話を聞いて」は難しいのです。

絵カードなどパッと見てわかるようにしてください

目からの情報が理解し易いです。

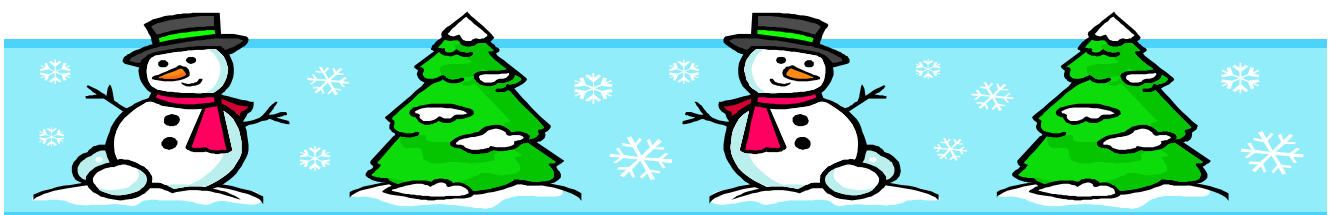
スケジュールを教えてください

見通しが立たないと不安になってきり無く同じことを繰り返したりします。いつまでするのか、終わったら次になにをするのか始めに伝えてください。

急に、突然は避けてください

初めてのことや、突然のことにとっても不安を感じます。前もって予告したり、びっくりさせようと、急に声を掛けたりしないで下さい。

*ここにあげた特徴は、自閉症の人の一般的なものの一部です。すべての自閉症の人が当てはまるわけではありません。自分の接する自閉症の人がどうなのかよくみて判断してください。



ステップだより

『きょうだい児の会ステップ』は10月は海ノ中道海浜公園にてバーベキューと公園散策を行いました。

11月は久留米大学小児神経科医師の木村先生をお招きして、保護者の相談会を行いました。

当日は先生に兄弟児がボランティアさんと室内レクリエーションを楽しむ様子を見ていただき、その後場所を移動し、保護者と一緒に昼食をとりながらの懇談という形で行なわれました。

途中からボランティア代表の方も合流され、普段の子どもたちの活動中の様子などお聞きしながら和やかな雰囲気の中での相談会となりました。

普段お話しすることの少ない兄弟姉妹についてですが、当然ひとりの子どもの子育てとしての悩みもあると同時に、その子自身の個性、立場や環境の違いもあります。改めて対応の難しさを感じました。

また保護者自身にもさまざまな思いがあり、たくさんの貴重なご意見を述べていただき充実した時間を過ごすことができました。

*ステップはTOUCHがおこなっているきょうだい児の支援事業です。

障害のあるきょうだいがいることで、外に家族で出かける経験が少なかったり、出かけても人ごみや、格式の高い場所を避けているために、思っていたより、きょうだい児の環境に影響があるようです。

ボランティアのお兄さんおねえさんと、たくさんのごことを経験して、似ている境遇の仲間をもって、健やかな成長をしてもらいたいと思いました。

*この相談会は、次回は5月に予定されています。



ステップ活動写真

MA/FA便り

『MA』は、母親や、施設職員中心の学習会で、月に1度例会があります。

10月は「その子にあった構造化を考えてみよう」、11月は「ひとりひとりの困ったを解決してみよう」と題しておこなわれました。会員が、毎日の生活の中で、より一層の自閉症の理解と実践を進めていけるように学習しています。

また、年2回の講演会を実施し、啓発にも取り組んでいます。10月に行われた講演会では、香川大学の坂井聡先生をお招きし、参加者にも「おもしろくて、しかも解りやすかった」と大好評の講演を聞くことができました。

12月は、例会と懇親会を予定しています。

『FA』は主に父親中心の学習会で、月に1度土曜日に行っています。

障害児を育てていくうえで、父親の参加は不可欠です。自閉症に対する理解を深めてもらい、父親同士の情報交換の場となっています。

10月は坂井聡先生の講演会のビデオを見て、11月は懇親会を行いました。



*MA/FAともに、専門家にも参加していただき、相談に対して、より専門的なアドバイスをいただいています。

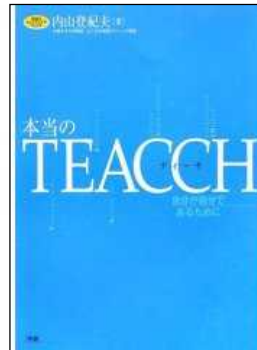
本のご紹介



服巻智子編著

「自閉症スペクトラム 青年期・成人期のサクセスガイド」(出版:クリエイツかもがわ 2006年10月 2100円)

ニキ・リンコ/榎木たけこ/Rosamondo(佐々木加奈)/忍/空音 著



内山登紀夫著

「本当のTEACCH 自分が自分であるために」

(出版:学研 2006年9月 1800円)

2005年3月に佐賀であった第1回オーティズム・リトリート・ジャパン(支援者も学べる自閉症者のための当事者大会)の記録です。

ニキリンコさんはテレビのことについて語っていましたが、感覚的なものや自閉症としてもとても重いのだろうなというところをわかりやすく語っています。ご夫婦で自閉症をお持ちのRosamondoさんと忍さんの別々の視点からの話や母としての空音さんの話はとても面白かったです。大会に行きそびれた方や自閉症の子どもの世界をのぞいてみたいと思う方にお勧めの本です。

誤解されやすいTEACCH、アンチTEACCH派の方以上にTEACCHにはまってしまっている方に読んでいただきたい本です。それが本当にTEACCHなのか今一度考えてもらうため、書かれた本だと思います。TEACCHの理念、歴史アメリカの現場の様子、地域との連携が書かれています。故ショブラー先生、メジボフ教授のインタビューではTEACCHに対する真摯な気持ちが受け取れます。自閉症児者のことを考え、いいものは取り入れていく寛容さと自閉症を文化としてとらえる、相手を立てることはここからきているのかと思いました。

助成、寄付を頂きました皆様、賛助会員の皆様、
ご協力ありがとうございました。心より御礼申し上げます。

2006年8月～11月

助成・寄付

団体(順不同・敬称略)

福岡博多ライオンズクラブ 福寿飯店 財団法人 松翁会 福岡市NPO活動支援基金(あずみん夢ファンド)
NPO法人モバイルコミュニケーション・ファンド「2006年度ドコモ市民活動団体への助成金」

個人(順不同・敬称略)

大石 みさ 滝井 登 藤村 浩美 宮川 美智子 金崎 慶子 波佐間 りえ子 宮川 浩範
井上 哲雄 石川 智香 水野 登志子

賛助会員

個人(順不同・敬称略)

坂本 乃生枝 高井 敏雄 藤村 浩美 鮫島 哲也 瀧井 はる香 鮫島 文子 副島 雅子
伊波 玲子 田口 博美 岡本 幹子 友寄 文子 藤松 鈴子 鶴崎 安曇 内田 博昭
山元 浩美 大神 和恵 滝井 登 大森 裕一 大森 奨 池松 孝浩 中村 久美子
馬場 由紀子 長澤 暁子 升岡 奈保子



編集後記

知的障害の有ると無い自閉症の兄妹を育てていまず公的なサービスは、知的障害としては受けられませんが、自閉症で受けられるサービスはあまりに少ないと感じます。自閉症の生きていくうえでのつらさは、目に見えないせいか置き去りにされていることが多いです。支援の手が欲しいから、TOUCHが出来たと思います。自閉症に特化した支援を求めている人に、適切なサービスを提供しています。広報紙も4号目少しでも自閉症の人のお役に立てればと思っています。

発行元

特定非営利活動法人 自閉症くらし応援舎 TOUCH
～ 広報部 ～

福岡市東区箱崎1丁目19-9 優箱崎ビル1F 2号
TEL&FAX(092)632-8150
<http://www.npotouch.jp/>
E-mail npotouch@ybb.ne.jp